

戦史叢書『蘭印攻略作戦』の英訳・公開について

庄司 潤一郎

オランダのコーツ財団 (The Cortts Foundation) は、ケース・コーツ氏 (Kess Cortts、1920-2005) が自らの財産をもって 2003 年に設立した公益財団で、特に、オランダ東インド会社及び第二次世界大戦期の蘭印に関する史資料の調査・収集・公開に尽力しています。

同財団は、事実関係のより正確な把握を通じた相互理解の深化とオランダ国内をはじめとする諸外国における当該期の日本研究の促進を目的として、2007 年より「戦史叢書」の蘭印関連 6 巻の翻訳 (英訳) プロジェクトに着手してきました。

この度、その第 1 号として第 3 巻『蘭印攻略作戦』の英訳が完成、「The Invasion of the Dutch East Indies」と題して、9 月 21 日に公開されるにいたりました。ライデン大学出版会のウェブ (Open Access) で公開されると同時に、注文による簡易製本 (オンデマンド印刷) も行っています。下記のサイトで閲覧・ダウンロードが可能です。

<https://openaccess.leidenuniv.nl/handle/1887/35184>

公開に際して、9 月 21 日ライデン大学において記念式典が挙行されました。式典では、コーツ財団理事長のエグベルト・ヤーコブス (Egbert Jacobs) 氏の挨拶ののち、同書の翻訳・編集責任者のウィレム・レメリンク博士 (Dr. Willem Remmelink、元日蘭学会常務理事) 及びオランダ軍事史研究所上級研究員のペトラ・フルーン博士 (Prof. Dr. Petra Groen) による記念講演、最後に、コーツ財団からライデン大学への引き渡し式が行われました。ちなみに、同プロジェクトには、戦史研究センターのカウンターパートであるオランダ軍事史研究所も協力しております。式典には、辻優駐オランダ日本大使をはじめとする日本、オランダ、インドネシアの政府関係者のほか、日本からプロジェクト実行委員の後藤乾一 (早稲田大学名誉教授)、高橋久志 (上智大学名誉教授)、戸部良一 (帝京大学教授)、水島治郎 (千葉大学教授) の各氏が参列されました。

今回の英訳公開の意義は、第一に「戦史叢書」初の完訳である点です。これまで、オーストラリアで部分的に英訳のうえ公開された例はありますが、一巻が全文英訳されたのは初めてです。我々戦史研究センターといたしましても、画期的な出来事です。

第二に、戦後 70 年の記念すべき年に、オランダにおいて公開されましたことは、戦争という不幸な過去を乗り越えた戦後日蘭両国の「和解」を象徴している出来事とも思われます。

庄司 戦史叢書『蘭印攻略作戦』の英訳・公開について

さらに日蘭関係という意味では、ライデン大学出版会のウェブサイト上で公開されました点にも、ゆかりを感じます。ライデン大学は、丁度 160 年前の 1855 年、欧州で初めての日本学科が設置され、欧州における日本に対する関心を高める上で大きな貢献をいたしました。また、日本の近代化を支えた西周、津田真道が留学生として学んだ大学としても有名でもあります。

第三に、日本政府は現在、日本近現代史に関する情報の対外発信強化に取り組んでいますが、「戦史叢書」の英訳により、オランダはじめ世界の人々に日本側の視点が紹介されることが可能となります。もちろん、「戦史叢書」の記述は一つの見方にすぎませんが、歴史に関するさらなる相互理解が促進されることが期待されます。

なお、同財団は、次いで第 26 巻『蘭印・ベンガル湾方面海軍進攻作戦』の翻訳に取り組んでいます。以下に、フルーン博士の記念式典における講演の日本語訳を掲載いたします。

(防衛研究所戦史研究センター長)